

「秋保大滝周辺エリア」魅力・回遊性向上に向けた 取り組みの方向性

令和7年5月23日
仙台市文化観光局

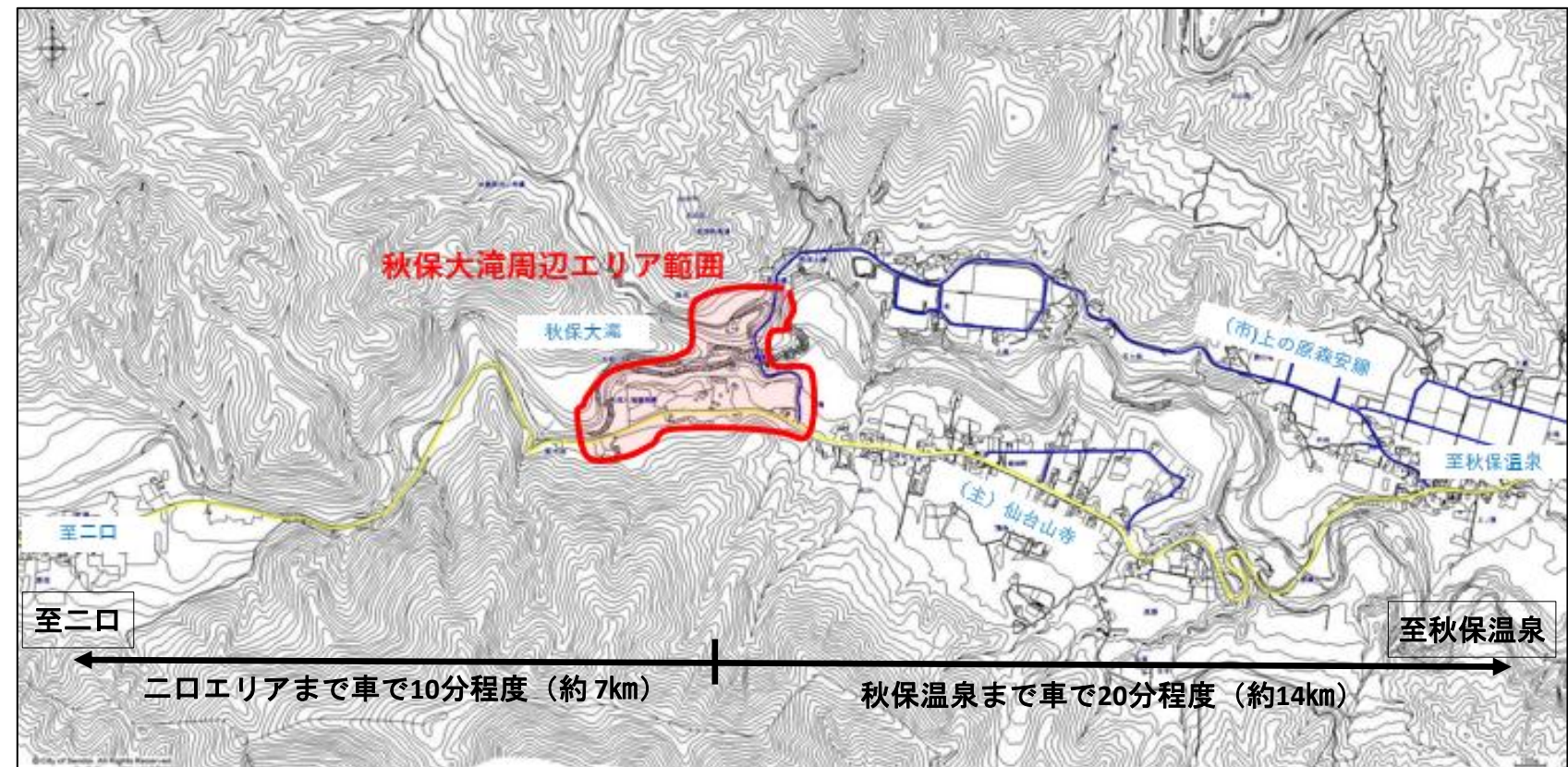
1 本方向性の目的

本市の交流人口拡大に向け、「秋保大滝滝見台」「秋保大滝植物園」「大滝れすとはうす」「秋保大滝駐車場」「西光寺」を有する秋保大滝周辺エリア一帯の魅力向上及び各施設の機能強化を図り、新たな過ごし方や価値の提供を行うことにより、エリア全体における賑わい創出と回遊性の向上を目指す。

2 秋保大滝周辺エリアの範囲と特徴

(1) 範囲

面積：約300,000m²の範囲



(2) 特徴

- ・ **秋保大滝周辺エリア**は秋保温泉から車で20分ほど(約14km)に位置し、国指定名勝の「秋保大滝」や「西光寺」、「秋保大滝植物園」、周辺に立地する特色ある店舗など、四季を通して観光客や市民の憩いの自然空間を有する観光交流地域である。
- ・ 秋保温泉は仙台都心から車で30分(約18km)の場所に位置しており、本市の令和5年観光客・宿泊客数調査によると年間約150万人が訪れ、宿泊は年間約70万人を記録し、県内でも人気の高い地域となっている。そしてその先に、さらに壮大な自然があり、秋保の中でも自然の奥深さを感じられる場所として、この**秋保大滝周辺エリア**がある。
- ・ また、**秋保大滝周辺エリア**からさらに西部(約7km)には、国指定名勝「磐司」を筆頭に、スケールの大きな自然が集積し、秋保の中でも山地の豊かさ・美しさを感じられる、蔵王国定公園、県立自然公園に位置する二口エリアがある。
- ・ **秋保大滝周辺エリア**において、エリアの魅力を向上することに加え、二口エリアも含めた情報発信を行うことにより、秋保温泉から秋保大滝さらに二口エリアまで誘客を図り、秋保全体の回遊性を高めることにつながる可能性を秘めている。

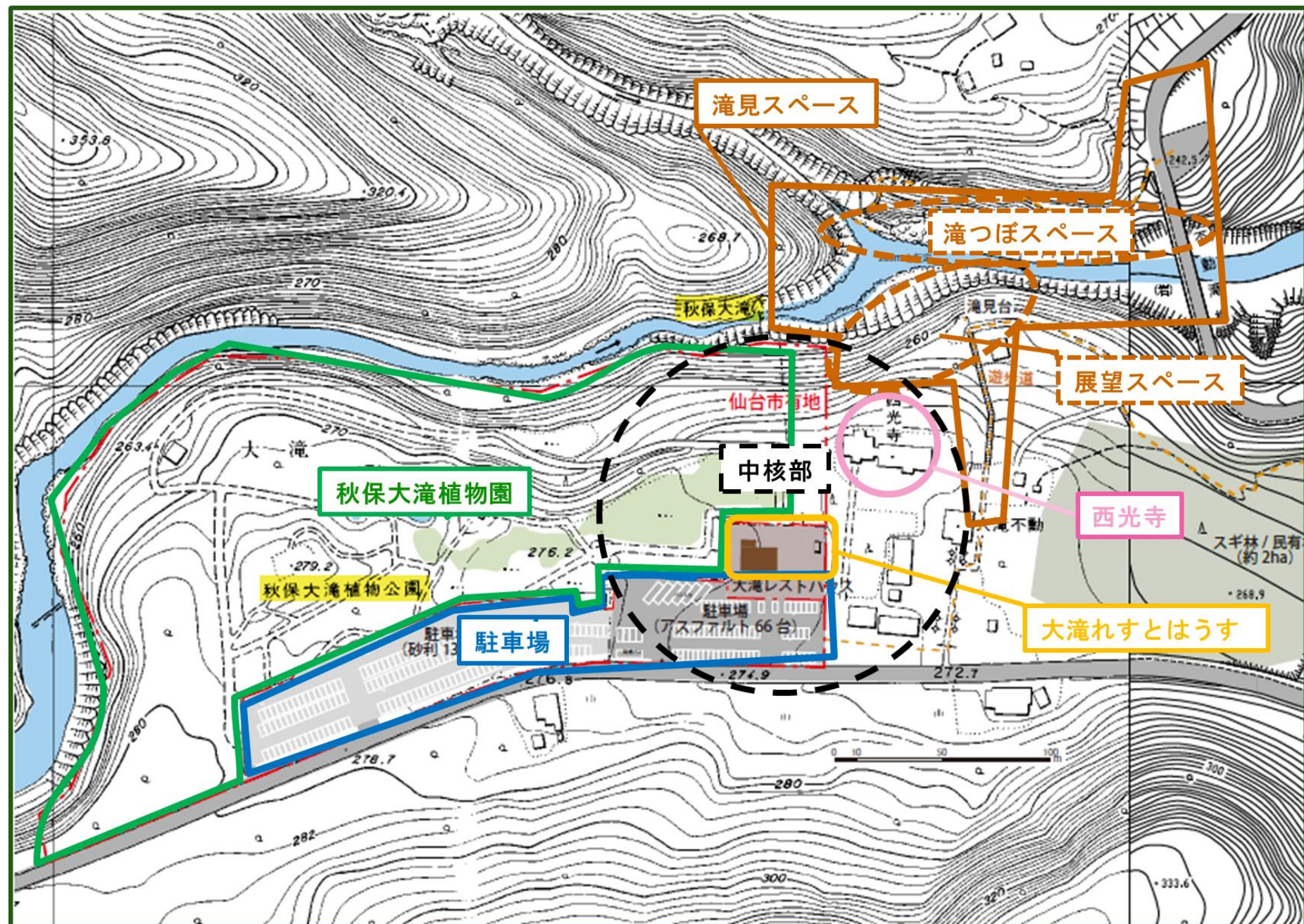
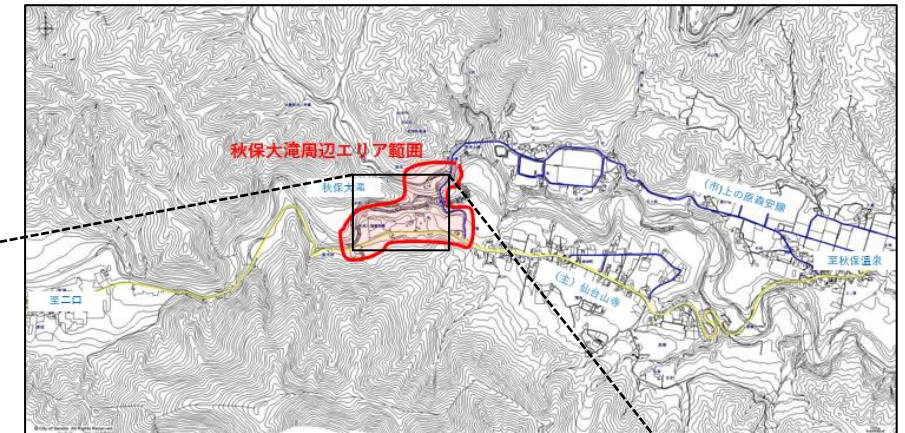
2 秋保大滝周辺エリアの範囲と特徴

(3) 特徴ある5つの観光資源

このエリアには次の特徴ある5つの観光資源等がある。

- ・秋保大滝を眺めることができる「滝見スペース」（展望・滝つぼスペース）
- ・蔵王山系の植物の宝庫「秋保大滝植物園」
- ・観光客の休憩場である「大滝れすとはうす」
- ・観光客を多く集客できる「駐車場」
- ・歴史ある「西光寺」

⇒上記5つの観光資源の中心に位置する「中核部」



3 秋保大滝周辺エリアの現状と課題

■滝見スペース

- 資源**
- ・国指定名勝で日本三大名瀑の一つである秋保大滝を、上部より展望できる滝見台がある（展望スペース）
 - ・落差約55mの滝
 - ・山形県山寺立石寺の奥ノ院である「西光寺」がそばに立地
 - ・慈覚大師円仁が、その姿に感動してこの地を山形県山寺立石寺の奥ノ院としたと伝わる
 - ・水飛沫が無いマイナスイオンを肌で感じることができる滝つぼの水辺空間がある（滝つぼスペース）

課題 展望スペース

- ・滝見台に至るためには、10m以上の高低差を下る60m以上の長い距離を、蹴上が20cmから30cmある階段によってしか行くことができない
- ・ベビーカー利用者や高齢者、足が不自由な方が安心して歩き見物することができないため、観光および集客の観点から大きな課題となっている
（ベビーカーを押した家族連れ、階段を歩けない高齢者、車イス使用者は大滝が見られない）

滝つぼスペース

- ・水飛沫が舞う滝つぼ近くの水辺までには、不動滝橋の袂から高低差30m以上の自然歩道を経由することになる
- ・駐車場から遠く、自然歩道はあるが、足元の石の状況などで、高齢者や足が不自由な方が安心して歩くことが難しい



■秋保大滝植物園

- 資源**
- ・蔵王山系の800種の植物
 - ・3,000本のシャクナゲ園やスイレン池
 - ・秋保町の歴史を伝える炭焼き小屋
 - ・秋保大滝の上流にある美しい「すだれ滝」や「みぞれ滝」が見られる
 - ・れすとはうすに隣接し、イベント会場としても使われる芝生広場

課題 入園料という心理的なバリア（壁）による自然環境体験の機会の損失（来訪者が限定される）

- ・広報・情報発信による魅力の伝達不足
- ・潜在快適性の高い芝生広場などの低い利用頻度
- ・紅葉時期などの観光ピーク以外の閑散期の誘客
- ・定期的なイベントの認知度が低い
- ・大滝への来訪者数データ約100,000人に対し植物園へは約10,000人の来場者数である。〔2023年 東北観光DMPデータによる〕



3 秋保大滝周辺エリアの現状と課題

■大滝れすとはうす

- 資源

- ・ 現在入居しているテナントの、地元野菜や山菜を使用したソース等すべて手づくりの食事メニュー
 - ・ 様々な用途に使用可能な建物横の芝生広場
 - ・ ウッドデッキや広い店内
 - ・ 趣のある山小屋風の外観
 - ・ インバウンドに人気の物販スペース
 - ・ 観光情報発信可能なスペースがある
- 課題

- ・ 飲食サービスの提供が外観から認識し難い
 - ・ 客席等のレイアウト的に多くの方が利用し難い
 - ・ 広報、情報発信不足（認知度が低い）
 - ・ 営業時間が15時閉店と短く、それに合わせて休憩スペースとトイレの利用ができなくなる
 - ・ トイレの利用時に室内の待合スペースを通過しなければならない
- 
- ＝ 域外観光客への食を通じた地域の魅力発信

■駐車場

- 資源

- ・ 最も大滝に近い舗装駐車場(100台+ 大型5台)、大滝公衆トイレ手前の砂利敷駐車場(30台)、そして砂利敷の臨時駐車場(100台) があり、紅葉など観光客が多く訪れる季節には重宝する一方で、普段は空きスペースになってしまっている
- 課題

- ・ 近接施設への誘導サインが未整備
 - ・ 閑散期の利用が少ない
 - ・ 砂利敷きの駐車場は雨天時などは足元が水たまりで歩行が困難になってしまう
- 

■中核部

- 資源

- ・ 外部空間としてつなげることが可能
- 課題

- ・ 物理的に遮っている柵などの撤去が必要であり、空間のつながり等を検討する必要がある

■当該エリアへのアクセス

- 資源

・ バス利用が可能	仙台駅西口	土日祝のみ	3便	
	JR仙山線愛子駅	平日	行き5便	帰り4便
		土曜	行き帰り	3便
		休日	行き帰り	1便
- 課題

- ・ アクセス手段が限られる（バスか自家用車のみ）
 - ・ バスの便数が少ない

4 目指す姿

■滝見スペース

- ・大滝の新たな魅力、壮大な自然を体感できる展望スペースを再整備する。（滝側への張り出し構造や、素材の工夫）
- ・ベビーカー利用者や高齢者、足が不自由な方が安心して歩くことができるアプローチ路を整備する。
- ・より多様な観光客を誘引し、来訪者の増加や秋保大滝周辺エリア内外の様々なプログラムへの波及を期待できるものとする。

多様な観光客の誘引、来訪者増加

■大滝れすとはうす

- ・客席、休憩スペースのレイアウトの改善により、多くの方に利用してもらえる環境に整え「ゆっくり滞在」を促す。
- ・情報発信等、PR強化として、建物内外の実空間及びSNS等での情報発信の強化、クオリティ向上により、認知度を向上させる。
- ・当該エリアに来れば必ず訪れたくなる利便施設とする。
- ・営業時間を延長し、魅力的な飲食等の体験を提供することで、より多くの観光客の利用を促す。
- ・観光客が利用しやすい快適なトイレ環境の整備を行う。
- ・飲食サービス提供が一目でわかる外観を工夫し、誘客を促す。

情報・食・憩の拠点、滞在者増加

■アクセス

- ・二次交通の充実化を図る。（二口～野尻～大滝～秋保温泉〔湯元〕）
- ・秋保温泉から秋保大滝さらに二口エリアまで誘客を図り、秋保全体の回遊性を高める。
- ・温泉日帰り客や宿泊客への新たな滞在プラン提供の可能性を広げる。

■秋保大滝植物園

- ・展示内容のグレードアップ等により、多様な入園者層を誘引する魅力的な環境を整える。
- ・植物園の環境を活かした自然に触れる体験を広く提供し、入園者数を増やす。
- ・「すだれ滝」「みぞれ滝」などを新たな見どころとし、親水空間などの創出を図る。
- ・秋保大滝周辺エリアと連携した植物園の魅力やイベント情報の周知・広報により、情報発信を強化し集客につなげる。
- ・エントランスの位置や芝生広場の活用など、大滝れすとはうすとの関係性をうまく利用し集客につなげる。
- ・観光閑散期の誘客に取り組み、定期的なイベント等の開催でリピーターを育てる。

花やみどりの魅力的な体験、入園者増加

■駐車場

- ・利便性向上のためのアスファルト化等を検討する。
- ・大型バスや周遊バス等受け入れのための環境を充実化を図る。
- ・誘導サインを整備し、スムーズな周遊を促す。
- ・今後のイベント開催やRVパークなどの新たな使われ方を検討する。

駐車場の活用検討、滞在・周遊促進

周辺地域への賑わいの波及

各観光資源同士の相乗効果を生み出し賑わい創出へつなげる

5 整備方針

観光資源の魅力創出と回遊性の向上による賑わいのある「秋保大滝周辺エリア」

以下の整備を進めながら、各観光資源の磨き上げをしていく。

● 滝見スペース ・ ・ ・ 秋保大滝滝見台とアプローチ路の再整備

展望スペース : 滝や周辺景色の魅力を最大限に引き出すことができる滝見台と、利便性を向上させるアプローチ路を創出し、悠大な秋保大滝を肌で感じながら、絶景を堪能できる場所とする。

滝つぼスペース : 将来的には、滝つぼまで到達することができる環境を再整備する。
(新たな到達ルートの検討も含め、より安全な散策ができるようにする。)

● 秋保大滝植物園 ・ ・ ・ 秋保大滝植物園の活性化・資源活用を見すえた整備

秋保大滝から続く自然の豊かさを感じながら、花やみどりの展示を充実させ、施設を活用した新たな催しなどを楽しむことができる場所とする。

● 大滝れすとはうす ・ ・ ・ 大滝れすとはうすの拠点整備

「秋保大滝周辺エリア」の中心に位置している大滝れすとはうすから、当エリアでの活動展開・催し等の情報発信拠点、交流の拠点、滞在時間の延長を促す飲食スペースの充実、憩いの場所とする。

● 駐車場 ・ ・ ・ 利用者の受入環境の整備・充実化

「秋保大滝周辺エリア」の玄関口として、来訪者が快適に利用することができる場所とする。

● 中核部 ・ ・ ・ 各観光資源の相乗効果を有効的に生み出すことができる機能の創出

イベント展開、屋内・屋外空間コラボの可能性、情報収集し秋保の魅力を満喫できる、癒しの場所とする。

● アクセス ・ ・ ・ 秋保全体の回遊性を高める二次交通の充実化

二次交通の充実により、秋保温泉から秋保大滝さらに二口エリアまでの周遊促進を図り、周辺地域への賑わいの波及を図る。

※ 整備時には、その観光資源の代替えを検討し、観光地としての魅力・賑わいを絶やさない工夫をする。

5 整備方針（エリア図）

